

第1分科会-④

施設ケアマネジメントにおける

プランニングシートの開発について

研修ツール

ICF モデル

施設ケアマネジメント

介護支援専門員専門研修ツールとしての活用と効果

富山県 富山市

富山国際大学

講師：相山 馨

大江苑：串田 美代志 流杉病院：野上 晓

白雲荘：五十嵐 文子

Fax 0762-82-4050 E-mail : houketsu@kashiwera-shi.jp

E-mail : aiyama@tuins.ac.jp

施設またはサービスの概要

富山県における施設介護支援専門員専門研修では、富山県介護支援専門員施設ケアマネジメント企画検討チームにより開発されたプランニングシートを活用し、演習を行っている。ここでは、シート開発に向けた取り組みやその効果について紹介する。

<取り組んだ課題>

2003年に、介護支援専門員の研修において保健・医療・福祉の共通言語として ICF モデルが用いられるようになった。それに伴い、富山県の施設介護支援専門員専門研修においても、アセスメント情報を ICF モデルで整理し、プランニングへと展開する研修を導入した。

また、2006年度以降、ICF モデルを用いたケアマネジメントの展開を演習の中に取り入れた。しかし、そこでは、アセスメント情報を ICF モデルで整理することはスムーズにできても、その後のケアプラン作成へと展開する過程において、参加者がつまずく場面が多く見受けられた。そのため、研修に参加しているすべての人が、ICF モデルにより、利用者の全体像をとらえた上で、その人らしく生活するためのケアプランへの展開を可能にする「施設ケアマネジメントプランニングシート」を開発することにした。

<具体的な取り組み>

研修を担当する富山県介護支援専門員協会施設ケアマネジメント企画検討チーム(介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設に勤務するケアマネジャー、研修講師で構成)を結成し、プランニングへの展開をスムーズに進めるためのツールについて検討した。

まず、① ICF モデルで整理した情報をもとに、利用者のその人らしさを把握し、それを支援の柱に位置づける。【シート①:利用者らしさ発見シート】次に、②その人らしさが発揮できる利用者固有の生活を明確にし、ニーズを抽出する。【シート②:利用者の生活課題発見シート】、最後に③ニーズを解決するための具体的なケアのアイディアを見出す。【シート③:利用者らしさをいかしたケアのアイディアシート】このような展開を演習シートの中に位置づけた。

<活動の成果と評価>

開発されたプランニングシートは2008年から富山県介護支援専門員専門研修で活用している。そして、富山県介護支援専門員施設ケアマネジメント企画検討チームにおいて、3年間にわたる実践の中でシートの項目や活用の方法等について精査を重ねた。今年度の研修終了後に行ったアンケート調査では、研修の参加者85名中94%の人がプランニングにおいて効果的なシートであると評価している。

具体的には①ケアプランが作成しやすい、②その人らしさをみつけやすい、③ニーズが導きやすい、④シートを進めていくことにより、自然にケアプランができる、⑤多様な社会資源をケアプランにあげることができる等の意見が多く見受けられた。このようなことから、このプランニングシートは施設介護支援専門員専門研修のツールとして効果を発揮するものであると考えられる。

<今後の課題>

アンケート調査における今後の改善点としては、①プランニングシートのマニュアルがあるとよい、②シートの中に記入例があるとよい、③1日研修ではなく時間がもっとほしい等の意見があげられた。今後はこのような点について検討し、介護支援専門員専門研修ツールとしての活用性をさらに高めていきたい。

<参考資料など>

- 1) 認知症介護研究・研修東京センター 認知症介護研究・研修大府センター 認知症介護研究・研修仙台センター編 『認知症の人のためのケアマネジメント センター方式の使い方・活かし方』認知症介護研究・研修東京センター 2005年
- 2) 大川弥生『生活機能とは何か—ICF:国際生活機能分類の理解と活用—』東京大学出版 2007年